

秦野市立本町小学校

研究テーマ：共に学びを創り上げようとする児童の育成

1、実践の目的

本校は令和3年度までの4年間、教科を体育科に絞って研究を進めてきた。4年間の取り組みを通して、教師側の意識が技能重視の「できるようにさせる」体育から、「みんなが楽しめる体育」へと変わるとともに、研究当初に課題とされていた児童の自己肯定感が、児童同士の認め合い、励まし合いによって改善してきたと感じている。

一方、年2回の体育アンケートから、運動に関する苦手意識など、体育への否定的な思いが強い一部の児童には、体育のみで自己肯定感を向上させることは難しいということが、見えてきた。

そこで、これまでの取り組みは大切にしつつ、令和4年度からは教科等を生活科及び総合的な学習の時間とし、一人一人が互いの良さを生かし合い、共に学びを創り上げようとする児童の育成を目指すことにした。

2、実践の内容

(1) 研究方法

ア 目指す子ども像と研究の手立て

研究を始めるにあたり、全教員で目指す子ども像と研究の手立てについて議論した。その上で、新しく始めた教科等による取り組みであり、授業づくりのイメージが教師間で異なること、真に子どもの実態や思いに寄り添った取り組みとしていくために、研究として完成形の子ども像や手立てを先に設定するのではなく、年度当初の設定として6点の子ども像を話し合い、年間の取

り組みを通して有効な手立てを整理していくことにした。6点の子ども像は、以下のとおりである。

- ・一人ひとりのよさや思いを生かし、創造しようとする児童
- ・相手の立場に寄りそって物事を多面的に考えられる児童
- ・自他の意見を比較したり関連付けたりしながら考えを深める児童
- ・協力して調べ、認め合いで深め、より良い考えを作り出す児童
- ・「聴いて、考えて、振り返る」このつながりを楽しめる児童
- ・自他の良さを認め合い、人とかかわることの楽しさを感じる児童

イ 校内研究学年部とブロック研

本校では、月2日程度を校内研究学年部として、学年で話し合い等の取り組みを行う日に設定している。その一部を活用し、全体を低学年、中学年、高学年の3つのブロックに分けてブロック研を開催した。なお、支援級の担任については、それぞれの担当学年の学年部やブロック研に参加することにした。

ウ 自主研修会

研究を始めるにあたり、教員の一部からは、生活科や総合的な学習の時間に関する基礎基本から改めて学びたいという声が上がった。そこで、評価の在り方や授業づくりの要点等を学ぶ自主研修会を実施した。

エ 外部講師を招聘した夏季研修会
 神奈川県教育委員会教育局子ども教育支援課の村本綾指導主事を招き、「生活・総合的な学習の時間から取り組む学校づくり」をテーマに校内研究1年目の取り組みを進めるにあたり知っておきたいポイントや県内外における先進校等の動向について学ぶ研修会を実施した。研修会を通して、校内研究が単に教科等についてのスキルを学ぶだけのものではなく、学校づくりそのものに

関わってくるものであるという認識を確認することができた。

オ 研究授業の公開及び実践報告会
 校内研究全体会として、以下の通り年2回の研究授業と1回の授業実践報告会を設定した。研究授業の参観や事後協議会、外部講師による講演を通して、子どもの姿を中心に据えた授業づくりの協議を行うことができた。

研究授業の公開及び実践報告会一覧

開催日	担当 ブロック	教科	形態	講師
11/2	低学年 (2年生)	生活	授業公開	藤瀬哲朗先生 神奈川県教育委員会教育局子ども教育支援課指導主事 高木俊樹先生 東海大学講師・神奈川県公立小学校元校長
1/30	高学年 (5年生)	総合	授業公開	田村学先生 國學院大學人間開発学部初等教育学科教授
2/1	中学年 (4年生)	総合	実践 報告会	田村学先生 國學院大學人間開発学部初等教育学科教授

3、実践の成果

本年度は研究の初年度として、それぞれの学年、学級が試行錯誤しながら有効な手立てを考え続けるということを重視した1年間であった。このことは、今回の校内研究を単なる一教科等の研究ではなく、「学校づくり」の一環として有意義なものにしていくためには、意味のある試行錯誤であると考え。7月、2月の年2回実施した児童向けアンケートでは、生活、総合的な学習の時間を楽しいと感じるかどうかの質問項目において、肯定的な回答が9割を超えており、取り組みの成果が示されている。

4、今後の展開

研究を進める中で、教員からは、探究的な学習の過程の中でも課題の設定が難しいという声を聞くことが多かった。今後、魅力的な学習材や地域協力者の方など、学習資源に関する情報の収集と共有を進めていきたい。

また、児童は6年間の連続した時間の中で学びを深めている。校内の指導観や指導方法等の共有をさらに進め、生活・総合的な学習の時間における学びの連続性を担保する体制づくりに努めていきたい。